

ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任

2022年度の担当科目一覧表

科目区分 (教養/専門/教職)	科目名	種別 (必修/選択)	開講時期	受講者数
教養	日本の文学と文化	選択	前期	20名
教養	大宰府地域学	選択	前期	27名
専門	作品講読	選択	前期	7名
専門	卒業研究1	必修	前期	8名
専門	プレゼミナール1	必修	前期	44名
専門	上代中古文学	必修	後期	2名
専門	古典文学を読む1	必修	前期	44名
専門	中世近世文学	必修	後期	49名
専門	プレゼミナール2	必修	後期	44名
専門	卒業研究2	必修	後期	8名

*科目区分:「教養」、「専門」、「教職」の3つから指定すること。

*種別:「必修」、「選択」の2つから指定すること。なお、選択必修は「選択」とする。

2. 教育の理念

- ・大学・短大における40年間以上の女子教育の経験を踏まえて教育にあたる。その理念は、「知識」を与えるだけの教育ではなく、学生一人一人が、多様化した現代社会を生き抜くための力、すなわち、「考える力」の養成が大切であると考えている。そのためには、まず「話す・聞く・書く・読む」能力のバランスのとれた教育が重要であると考えている。

3. 教育の方法

- ・講義に集中させるために、学生に「講義ノート」の作成を義務づけている。最近の学生は、ほとんどの学生が、講義中ノートをとっていないようである。講義や講演を聞くマナーから身につけさせる必要があると考えているからである。さらに、「講義ノート」には毎回、感想や質問を書かせている。

4. 教育の成果

- ・学習評価の方法の一つとして、「学習レポート」による評価をしている。レポート作成のために必要な学術論文をできるだけ多く読ませることによって、レポート作成力の養成にも役立っているように思っている。

5. 今後の目標

- ・コミュニケーション能力（文章表現力）の育成に、今より以上に力を入れていくこと。学生に、現代社会が一番求めている能力であることを理解してもらうためである。

6. 根拠資料

- シラバス
- 授業資料
- 授業評価アンケート結果
- 授業改善計画書
- その他（FWJConLine「文化教養」コース等）